Imajin21

今人創造

十津川村

TOTSUKAWA VILLAGE

温もりがほしいとき
立ち上がりたいとき
解き放ちたいとき
ココロに効き目あり

郷士くん

2011年は、大変な年でした。それは、奈良県においても…。

地震、大津波、大雨で亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げるとともに、いまだ行方のわからない方々のご家族の心痛、いかばかりかとお察し申し上げます。

今号で特集しました十津川。台風12号で大変な被害に遭われましたが、ようやく道路も復旧して、以前の生活に徐々に戻りつつあるように感じています。

十津川といえば、かつて「陸の孤島」と言われましたが、舗装道路やトンネル、また橋の完成で、今では、この言葉が死語となっています。しかし、このたびの災害で、「陸の孤島」という言葉を思い起こしました。

子どもの頃、吉野や十津川へ行ったとき、狭い道で木材を積んだ何台ものトラックと対向するときに「ヒヤリ」と感じたことは、今もはっきり覚えています。

温泉、自然など、私たちを引きつける素晴らしいものが十津川にあります。多くの方々が十津川を元気づけに訪れ、そして、心を癒してくれる大自然の素晴らしさに触れてほしいと願っています。

代表取締役社長　近東　宏光

Imagin21

今人創造

特集 十津川村 TOTSUKAWA VILLAGE

十津川村に誘われて …… 1

十津川村ってどんなところ？ …… 2～3

道の駅　十津川郷 …… 4～5

受け継がれる「がんばろうら精神」 …… 6～7

奈良の artist 03 古瀬　堯三 …… 8～9

Essay 印刷文化逍遥 23 …… 10～11

特集 奈良の城 四 龍王山城 …… 12～13

付録 台風被災復興応援ポストカード

職場風土改革促進事業への取り組み

少子高齢化社会にあって、これからは益々多様な働き方が企業に求められております。一方、働く人は、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）をより重要視する中にあって、企業としてはそれらを必要十分に充足する環境づくりが不可欠であります。

弊社は、平成14年にはISO14001を認証取得、また18年にはプライバシーマークを取得するなど、時代のニーズに合致した経営推進に努力してまいりました。そして、労働時間等設定改善法が施行されて（平成18年）以後、社内で委員会をたちあげ「有給休暇を取得しやすい環境づくり」をめざし、残業が避けて通れない業界にあって、残業時間を少しでも減少する努力なども含め企業理念の中にある「人間生活の向上」に邁進したいと考えております。

人間生活の向上とは、従業員の仕事と家庭の両立を支援することも大きく関係しており、具体的な取り組みは下記の通りです。

具体的な取り組み

1. 仕事と家庭が両立できる働きやすい会社作り（ワーク・ライフ・バランスの推進）
2. 育児・介護休暇制度の充実を図る
3. その制度を利用しやすい環境作り
4. 管理職層への研修の実施
5. 両立支援制度の労働者への周知徹底

代表取締役社長　近東　宏光

わたしたちができる環境づくり

自然との共存を図りながら
限りある資源を大切に使い環境を守っていく―
私たちは時代に役立つ企業であり続けたいと考えます

編集／制作／発行
共同精版印刷株式会社 http://www.kspkk.co.jp/

本　　社：〒630-8013 奈良市三条大路2丁目2-6 TEL 0742-33-1221 FAX 0742-33-7035
大阪支社：〒542-0082 大阪市中央区島之内1丁目12-3 TEL 06-6271-7951 FAX 06-6271-7954
東京支社：〒116-0014 東京都荒川区東日暮里5丁目6-4 TEL 03-3802-4741 FAX 03-3802-4740

FSC www.fsc.org ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC™ C007718

GOLD+ P08-0023 non VOC non DRAIN 環境保護印刷

たいせつにします プライバシー 24000148(03) JISQ15001:2006準拠

CERTIFIED JQA MANAGEMENT SYSTEM ISO 14001 JQA-EM2283 本社・本社工場

本誌に対するご感想、ご要望などがございましたら、上記本社内「イマジン21」編集部までお寄せください。

十津川村

TOTSUKAWA VILLAGE

十津川村に誘われて

奥里は初めて訪れた者も公平に迎えてくれる。十津川村の空気に触れると、そういえば…という感じで、一介の旅人に温かだった他の里のことを思い出した。

国道168号で左右に揺られながら、車を南へ走らせた。山が迫り、谷が刻まれ、ところどころで人々の生活が流れていく。過ぎていく景色のなか、家々の畑ではダイコンや白菜が葉を伸ばし、春に向かってエンドウ豆や玉ネギが植え時を迎える。「家族が食べる量の野菜は自給したい」。急峻地が多くて米作ができないからと、免租地として認められてきた村の自立的気風が、現代のつつましい畑にも感じることができる。車を降りると風が吹いていた。谷を渡る風だ。吊り橋がびゅうと鳴る。風が身にこたえ、温かな場所が恋しくなった。ちょうどいい、ここは十津川村。温泉が湧いている。

公衆温泉を見つけて、脱衣所から背中を丸めて露天へ急ぐ。じんじんしてきた。とろけてきた。脇の水流が落差2mほどの滝となって流れ、石積みの湯船に風情を届ける。さっきの風は湯気となって消えた。畳敷きの休憩部屋で湯酔いを醒ます。まぶたが重い。ゆるやかな時間が過ぎていった。

山と谷と人が織り成す里。次の季節も見てみたい。

花

待望の季節。陽射しが木立の隅にも降り注ぎ、村花「石楠花」も気高く咲き始めます。色香を振りまく花たちに会いたくなります。

水

躍動の季節。深い森から清冽にほとばしる天地の恵み。涼を求めて、流れの中へ。透き通る世界がこんなに快適だとは―。

OUTLINE TOTSUKAWA VILLAGE

十津川村ってどんなところ？

歴史に刻まれる「十津川」

奈良県の最南端に位置する十津川村は、森林と水資源に恵まれた村です。村の中央には十津川本流が深いV字渓谷をなして流れ、大峰山系、伯母子（おばこ）山系、果無（はてなし）山脈などの山並みが四方を囲みます。

十津川村は、奈良や京都から遠く離れた山深い環境にあるにもかかわらず、歴史のさまざまな場面にその名が見られます。「古事記」と「日本書紀」には神武天皇東征の際に道案内に立った八咫烏が登場しますが、それが十津川村の祖先だという説があります。壬申の乱（六七二年）では大海人皇子の吉野御軍に参加し、戦功によって租税を免じられたといいます。

保元の乱（一一五六年）の戦記「保元物語」には「十津川の指矢三町、遠矢八町の強勢が京へ馳せ上った」と記述され、南北朝時代の十津川は一貫して南朝方に忠誠を尽くしました。幕末には、文久三年（一八六三年）の天誅組の変に呼応して挙兵したのをはじめ、勤皇・尊王活動をする者が多くなり、明治四年（一八七一年）には郷民全員が士族に列せられました。

このように十津川郷士は日本の歴史にその存在を刻んできました。都から遠く離れた山間の地に安住しながらも、事が起これば国事に尽くすという気概は現在も受け継がれています。

世界遺産を歩こう

二〇〇四年に世界遺産登録された「紀伊山地の霊場と参詣道」のうち、「熊野参詣道小辺路」と「大峯奥駈道」の一部区間が十津川村を通ります。伯母子山から三浦峠、果無峠へと延びる小辺路には、宿場跡や石畳など往時を偲ぶ遺構が随所に残り、熊野詣の風情が漂います。奥駈道は釈迦ケ岳や玉置山など標高千～千九百メートル級の険しい

温

泰然の季節。積もった雪は音を連れ去ります。連れ戻すのは風の仕業。耳を澄まし、ぬくもりに浴する贅沢を心ゆくまで―。

山

変化の季節。山々が赤や黄に着替えていきます。色を変えない木もよく見れば冬支度。移り気なグラデーションが楽しみです。

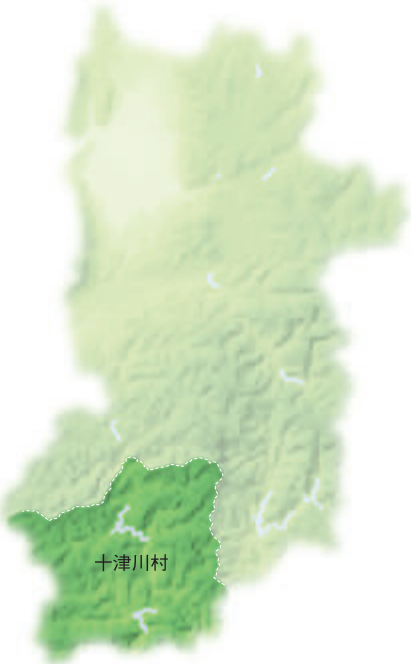
山岳道。修験者の行場跡や祠、仏尊像などが点在します。古き信仰と貴重な自然が宿る古道で神聖な体験が待っています。

源泉かけ流し宣言の温泉郷

こんこんと湧く極上の湯は十津川村の誇り。十津川温泉郷（湯泉地・十津川・上湯）がすべての温泉施設において、「源泉かけ流し宣言」をしたのは二〇〇四年六月二十八日のこと。豊富な湯量、清浄な泉質、村民の温泉愛が、温泉国家・日本で初の宣言を可能にしたのです。自然の恵みそのままの「ほんまもんの温泉」は、一度つかると、どっぷり沈みたくなるほどの抱擁感。みんなに教えたくなる温泉郷が十津川村にあります。

十津川村　Totsukawa Village

十津川村は、和歌山・三重両県に接する奈良県の最南端、紀伊半島のほぼ中央に位置し、森林と水資源に恵まれた村です。
大きさは東西33.4キロメートル、南北32.8キロメートル。面積は672.35平方キロメートルで、奈良県の約5分の1の広さを占め、村としては日本一の広さをもち、その96パーセントが山林です。



めはりずし

握った白米を高菜の漬物で包み込んだ郷土料理です。軽食代わりにほおばりたくなります。お蕎麦などとセットにするのもおすすめ。

郷土料理をご賞味あれ～

手打ちのそば

極限まで微細に挽いたソバ粉で打つのが今の道の駅十津川郷流。具だくさんのきのこそば（温）、なめこおろしそば（冷）が人気です。

ぼくが打ったおそばをどうぞ

ゆうべし

柚子の中身をくり抜き、代わりに味噌やソバ粉などを詰めて蒸し、わらでくるんで干した伝統保存食。香り豊かで酒肴に最適です。

炊きたてご飯やお酒にピッタリ

ROAD STATION TOTSUKAWA VILLAGE

道の駅 十津川郷

谷瀬のつり橋から車で約三十分、国道168号を南下すると、村の中心部に到着します。村に入って初めての信号機が目印。そこは、100％天然温泉で源泉かけ流しの湯泉地温泉です。そしてその温泉地内にあるのが、道の駅「十津川郷」です。

十津川村役場側に立つ道の駅は、観光で訪れる人々の憩いの場所です。ここの魅力は村の特産品や里人が昔ながらに作った惣菜や採れたての野菜等が並んでいることです。

また、川の流れを見ながら落ち着いた雰囲気の「喜茶」で味わう、自慢の手作りシフォンケーキは人気を呼んでいます。メロンやカボチャなど北海道新十津川町産の素材を用いたアイスクリームを味わえるのも村内ではここだけです。

エレベーターで二階に上がると、手打ちの蕎麦処「行仙」があり、「ひきたて、打ちたて、ゆでたて」の美味しいお蕎麦が味わえます。地元で採れた野菜やキノコをふんだんに使ってい

駅長からのコメント
COMMENT
駅長　辻 きさよ

今回、台風12号の影響で十津川村は甚大な被害を受けました。ここ道の駅でも、観光客の来客数がストップするといった厳しい期間を過ごしました。しかし、9月3日から役場等に勤務される方々の炊き出しを行い、役場職員はじめ、国交省や奈良県庁の職員の方々のために、一生懸命心をこめておにぎりやカレーを作らせていただきました。また、道の駅が閉まっていてはと、休館することなく営業を続け、自衛隊や警察の方々にも多く利用していただきました。

今回の災害では、自然の強さを痛感させられました。しかし、大きく壊れた道路も大勢の人々の力で災害から約2ヶ月で、予想以上に早い復旧となり人力の強さも感じています。一部警戒区域があるものの、温泉設備も修理され各旅館が営業を再開しました。ぜひ、多くの皆様に十津川村へお越しいただき、十津川村を楽しんでいただきたいと思います。

これからは鍋料理の美味しいシーズンです。村の山菜やキノコも美味しくいただけます。どうぞ十津川村にお越しください。そして、お越しの際は、道の駅「十津川郷」にぜひお立ち寄りください。スタッフ一同お待ちしております。

ゆず果汁製品

柚子は無農薬栽培に適した果実。ギューッと搾って、果汁を集めました。みずみずしい香りと酸味がどんな料理も引き立てます。

蜂蜜

澄んだ空気の里山は花の宝庫。石楠花や柑橘類など百花に誘われたニホンミツバチが集めた天然純粋蜂蜜を分けてもらいました。

温泉石鹸

十津川村の温泉はミネラル豊富で、皮脂や老廃物を洗い流す弱アルカリ性の“美人の湯”。温泉成分入りの手づくり石鹸も人気です。

野菜・キノコ

見てください!この堂々たるエリンギとシメジ。大きな寒暖差と豊かな水に恵まれた土壌で育つ葉物や根菜にも旨みが凝縮されています。

ます。

そしてなんといっても、源泉かけ流しの足湯は大人気のスポット。ドライバーの疲れを癒す安らぎの場となっています。料金はもちろん無料。いつでも誰でも楽しむことができます。ほんのり硫黄の香る足湯に入って温まってください。

道の駅　十津川郷

吉野郡十津川村小原225-1
TEL.0746-63-0003

ドライバーの疲れを癒す

足湯

十津川村ではもちろん足湯も「源泉かけ流し宣言」。ほんのりと漂う硫黄の香りも楽しめます。ほくほくとよく温まるので、足湯から出る人の足は湯に浸かっていたところまできれいなピンク色に染まっています。ほんの5〜10分ほど浸かっているだけでドライブの疲れも取れ、心地よくリフレッシュできます。

受け継がれる「がんばろうら精神」

二〇一一年八月二十五日、マリアナ諸島近海で発生した台風十二号は、台風の目がはっきりと分かる不気味な台風でした。進路を幾度となく変えながら紀伊半島に近づき、強い勢力を保ったまま日本の南海上をゆっくりと北上。九月三日、高知県東部に上陸、続いて岡山県南部に再上陸、そして四日未明にやっと山陰沖に抜けました。

この間の総雨量は十津川村で一三五八ミリと記録的な大雨になりました。和歌山・奈良両県で死者二十四人、行方不明者五十三人、負傷者五十人、住宅の全壊・半壊合わせて七十八棟、床上浸水千三百十五棟、床下浸水三千七百八十六棟、がけ崩れ百七カ所の被害（九月五日十一時現在消防庁調べ）が確認されました。まさに、明治二十二年（一八八九）八月の大水害（二百四十九人が犠牲）を思い起こすような被害でした。

九月三日、雨量規制から災害規制に変更され、各所で避難勧告や避難指示が発令される中、上湯川地区で土砂災害により家屋が全壊し男性一人が死亡する被害が起きました。夕方には野尻地区で村営住宅が流され、四人は救出されましたが、七人が行方不明となりました。消防団・警察が出動して必死で捜索に当たりましたが、夜になり河川が増水し、二次災害の危険性から午後十時二十分に捜索を打ち切り、翌朝六時から再開されることになりました。

四日、村長は奈良県に対し、自衛隊の災害派遣を要請。午前四時二十分、陸上自衛隊第四施設団の初動部隊二十七人、午後十二時三十分には本隊四十人が大久保自衛隊駐屯地を出発しました。村内では、ライフラインに影響が出始め、固定電話は不通となり、それまで使えていた携帯電話も使えなくなり外部との連絡が途絶され、村民の不安は一気に高まりました。

また、この時多くの世帯で停電や断水が発生。雨は止む気配もなく、川の水も増すばかりで村内の小学校や公民館に多くの村民（ピーク時で四百五十二人）が避難しました。

情報が全く入ってこない中、聞こえてくるのはラジオと雨音だけ。いったい何が起こっているのか、何がどうなっているのかと住民の不安は募るばかり。そんな夜中の二時頃、国道168号に掛かる折立橋が落ちたという情報が防災無線から聞こえてきました。このままで大丈夫だろうか。住民たちは体験したことのない不安と恐怖に襲われ、眠れない夜を過ごしました。

台風十二号は、速度が遅くなかなか本州を通りすぎず、雨はどんどん勢いを増して降り続けました。情報が届かない中、村の北部では、山が崩落し、十津川の本流がせき止められ、長殿発電所や家屋が流されるという、大きな被害が起こっていました。

また、村内各所で山が崩落し、道路は寸断され、孤立する集落が幾つもできました。

しかし今回、明治の大水害と違っていたのが救助の早さでした。いち早く地域の自主避難の

誘導や倒木の除去、土のう積みや地域の警戒などを行ったのが、地元の消防団員たちでした。情報が途絶えた地域を歩いては情報収集に回り、住民の安否確認を行いました。道が崩壊したため、山中を歩いて住民の避難支援に向かった消防団員もいました。誰もが必死でした。「地域の人たちを守るんや！皆で一緒にがんばろうら！」。あの幕末に活躍した、十津川郷士の姿がそこにありました。

自衛隊の偵察隊が五日に到着しヘリコプターによる輸送が始まり、物資に加え病人や孤立者の搬送も行われました。幸いヘリポートのある上野地から役場までのルートは大きな崩落もなくつながっていました。六日には、第三十六普通科連隊（伊丹駐屯地）百三十八人が五條市旧西吉野小学校に集結しました。大雨警報や注意報等すべてが解除されたのも六日のことでした。村内では、警察や消防、自衛隊等による行方不明者の捜索活動とともに救助活動や道路啓開、給水活動、物資の搬送等が行われ、道路が通れなくても空からの輸送によって、村は救われました。

また、国土交通省からも十八人の職員が到着し、十津川村現地緊急対策本部を役場内に設置しました。その後国交省は、十一日から国本部五十人体制で活動を行い、村内の林道・村道の被災状況調査も行われ、五十二路線、延長百七十キロメートルが調査されました。

村役場には奈良県庁や他の市町村から多くの職員が駆けつけてくれました。さらに、北海道新十津川町から三人の仲間が来村しました。三人は十八日に着任し、二カ月間、十津川村の職員として勤務下さいました。十津川村では明治二十二年の大水害で二千六百人が新天地を求めて北海道に移住し、現在の新十津川町を築いた歴史があります。十津川村と新十津川町は、いわば親子の関係、この関係はずっと続いているのです。

十津川村は今、この村を守るため、村民が一丸となり「がんばろうら！十津川郷」を合言葉に復旧・復興に向けてがんばっています。「多くの人に支えられながら、今日がある」。十津川村民一人ひとりの心に強く刻まれています。

これまで多くの皆様からの温かいお言葉や励ましの言葉、そして全国からの支援に私たちはどれほど助けられたかわかりません。感謝の気持ちでいっぱいです。心からお礼申し上げます。

しかし、復興はまだまだこれからです。私たちは前を向いて一歩ずつ歩いていきます。安全で安心な村づくりを進め、困難に立ち向かいながらも、歴史に刻まれる復興の手本となるような素晴らしい村づくりを目指して―。それが私たちの使命だと思っています。

明治二十二年の大水害（大字永井）

今回の大水害（写真上と同地）

長殿発電所

大字今西

奈良の artist 03

陶芸家
赤膚山元窯八代目

古瀬 堯三

Furuse Gyozo

ほんのりと赤みが差す素焼きを、手製の釉薬でくるみ、火にくぐらせることニ昼夜半。やがて淑やかな色気と気品をまとう器に、素朴な奈良絵が生気を吹き込みます。使うほどに肌に合う赤膚焼。古来相伝の技を守る赤膚山元窯・八代目古瀬堯三さんと土と火のおはなし―。

赤膚焼に込められた思い 土にいのち、火にいのり

赤膚山元窯の祖・治兵衛は天明の頃（一七八〇年代）に京より赤膚の地に入ったとされています。良質の粘土を恵んでくれる山、登り窯に適した勾配、燃料となる松の林、赤膚焼を保護奨励した郡山藩…。いくつものご縁によって現在地に引き寄せられました。今の赤膚山元窯には、八代目を含めて計六人の陶芸職人がいます。

赤膚山元窯の山から産出される「土」はきめが細かく、一三〇〇度という窯の高温に耐え、代々伝わる方法で調合する釉薬ともいい相性です。

「赤膚山は私たちにとって大切な場所です。父は『焼き物ができるまでの大半は陰の仕事。その陰があってこそ本物の美しさが生きる。何億年も眠っていた土に一つの命を吹き込むのだから』と、土への想いを話していました」。幼少より赤膚の土と過ごしてきた古瀬さんにとっても、土は宝もの。土を語る口調には敬慕の心がこもります。

ろくろ・ひもづくり・型押し等の作業により形にした作品に対して、冬は布をかけたり、夏は乾燥の調節に留意したり、まるで子守りをするように「土守り」をします。赤膚山元窯では、土をいのちあるものとしてとらえているのです。

土の次は「火」の出番。赤膚山元窯には登録有形文化財の江戸時代後期「大型登り窯」と昭和初期「中型登り窯」、先代が設けた昭和後期「小型登り窯」があります。作品は、窯に入れた瞬間から陶芸家の手を離れ、火に委ねられます。「窯に火を入れるときは、常に火の神様、窯の神様に無事に焼き上がることを祈ります」と古瀬さん。火もまた特別な存在なのです。

伝統からはみ出さず『用の美』を創作する

「古瀬堯三」を継承した当初は重責を感じたというが、「父や母が好きだった赤膚焼を、私も好きになって買いに来た」と言って訪れるファンの存在が大きな励みであり、支えです。

創作の土台にあるのは「代々培ってきたもの、ずっとあるものを大切にしたい」という思い。むろん伝統を守るだけでは自身の道は開けません。高齢者にも持ちやすい形状にしたり、女性的な「花」の奈良絵を描いたりするなど、伝統からはみ出さないように独自の視点を取り入れた作品も増えてきました。

父の教えの中で「曲がっていると曲げているは違う」という言葉が印象的だといいます。ろくろの前に座り、一点にのめり込んでいては「木」を見るだけ。創作過程で一歩引いて「森」全体を見ること。そうすれば丸みや角度、くぼみなどが意図通りのバランスで表現されます。赤膚山元窯の風格はこうして生まれてきたのでしょう。

「父は『見てよし、使ってよし。それが理想だ』とよく言っていました。私も嫌味なしに使ってもらえるものを大切にしたいし、受け継がれてきた定番の型は作り続けます」

古瀬さんが追求するのは、実用の中にある美。その「美」も時代とともに変遷します。変わらないのは、土と火への畏敬と感謝。料理を盛ったり、花を生けたり。使う人を思う気持ちが、『用の美』の伝統に積み重なっていきます。

Profile

本名古瀬文子（のりこ）。1973年生まれ。帝塚山高校卒業後、シドニー大学で美術工芸を学んだ。帰国後、父の7代目古瀬堯三に師事し、2010年、8代目古瀬堯三を襲名。開窯200年以上という深き伝統を継承しつつ、個人の創作活動では独創的な作品も手がけている。

【公式HP】赤膚山元窯 検索

http://www1.kcn.ne.jp/~akahada/

印刷文化逍遥 23

「本の帯」について

手元にある「国語辞典」で「おび」の項を引くと、『①着物の上から腰に巻きつける、細長い布。②物を巻く、幅のせまいもの。「新刊書の―」。―に短し、襷に長し（どっちつかずで、役に立たないこと。中途半端）』とある。これでは本の帯の答えにはなっていない（俗に「腰巻き」と言うこともあるが…）。

そこで、あらためて具体例を示し、解説をすることにしたい。

まず、新潮文庫の『悪の華』からにしよう。この帯の裏側には「新潮文庫の分類」とあり、日本文学／草色帯（一〇〇〇台）、小説／青色帯（二〇〇〇台）、詩歌・評論・随筆・其他とあり、海外文学／赤色帯（三〇〇〇台）、小説／黄色帯（四〇〇〇台）、詩歌・評論・随筆・其他となっている。

小生所有の『悪の華』は「四〇〇六C」という分類に入れられ、発行は、今は懐かしい昭和二十八年十月三十一日となっている。定価は一三〇円で黄色帯である。

次は岩波文庫。同じボオドレールの『悪の華』は赤帯で星五つだから二〇〇円。発行は昭和三十六年五月第二刷である。ついでに同じ版元の『ヴェルレエヌ詩集』は八〇円。つまり星二つである。こちらは昭和二十七年七月の発行になる。当時は、十九世紀フランスの象徴派詩人のものを読んでいたので、こういうものを求めていた。

時は流れて、同じ『悪の華』も二〇〇五年になると、第四十九刷となり、帯はなくなって、カラー表紙の背文字の部分の下段に紅色で印刷されている。ちなみに上部約三分の二は黄土色になっている。

他にも文庫本はあって、たとえば新潮文庫がある。福田恆存という人の『私の國語教室』は名著の一冊だが、この分の帯は灰色になっていて、黒で印刷されている。所有のものは昭和四十二年八月の発行で第七刷である。本書では特に「現代かなづかい」の不合理が述べられ、第一章がそれに当てられている。

ほかに珍しいところでは新潮文庫の『ジイドの日記』があり、訳者は新庄嘉章であったが、結局、第六巻で中絶になり、今日に至っているのではないか。なお関連文献ながら山内昶という人の『ジッドの秘められた愛と性』があるが、同性愛者ジッドの一面が捉えられている。これは「ちくま新書」で帯は赤である。

版元は変わるが、角川文庫の『動物の値段』という一冊がある。角川では昔、原口統三の『二十歳のエチュード』という一冊を求めたが、懐かしいの一語に尽きる。

新潮文庫では他に、『グウルモン詩集』、村上菊一郎編の『フランス詩集』を挙げておきたい。また堀口大學の『月下の一群』という訳詩集は、上田敏の『海潮音』（岩波文庫）とともに忘れることはできない。

さて、先ほど書き漏らしたが、ボオドレールの『パリの憂愁』も岩波文庫としては貴重な一冊になっていることはいうまでもない。その他、『ヴィヨン全詩集』や『ゴンクールの日記』など、帯とともに思い出の文献として残っている。

井上ひさし『小林一茶』

ボオドレール『パリの憂愁』

『ジイドの日記』

ボードレール『パリの憂愁』

福田恆存『私の國語教室』

また箱入り本の帯もそれぞれに意味があり、捨てることは相成らぬものであることは言うまでもない。東洋文庫の『異域録』や『古書通例』など、これまでに取り上げた本の冊数はかなりの数に上るが、それらは新聞の新刊紹介に書いたので、記録には残っているはずである。

井上ひさしが書いた『小林一茶』は、これまでの文献では見られなかった一茶の実像があり、戯曲家井上の片鱗を見せた快作であった。この帯文には「読売文学賞・紀伊国屋演劇賞」のダブル受賞が印刷されている。

その他、伊藤一哉の『ロシア人の見た幕末日本』も、エビ茶色に白ヌキといった派手さが目を引きつける。「新発見！初代ロシア領事の見聞録」という惹句は、簡にして要を得たキャッチフレーズになっている。

辞典の帯文にもそれなりの効果はある。たとえば大修館書店の『スタンダード佛和辞典』の帯に書かれた「初級者から専門家まで、信頼されるスタンダード佛和」は、愛用者へのやさしい呼びかけになっており、私も世話になった一冊であることを付け加えておこう。

このように帯文は短い言葉で効果的な役割を果たしており、折々の読者に購読を勧めている。「エロス本来の姿を求めて」。これは先ほどの『ジッドの秘められた愛と性』の帯文である。角川文庫の『動物の値段』も「テリー伊藤さん一押し！」という強烈な一文がある。

書店ではどのようにしたら売れるかを考え、懸命になって文案を練り上げるのである。その情熱たるや想像を絶するものがある。

嘉瀬井　整夫
［かせい　ただお］
1934年京都市に生まれる。
1949年より94年まで印刷産業に従事。
奈良県立短期大学（現奈良県立大学）卒業。

主著『井伏鱒二私論』
『奈良大和路文学散歩』
『奈良高畑日記抄』ほか。
文芸評論家。

特集

奈良の城 四 龍王山城

奈良にも多くの城が存在した。
時代の流れと共にそれは城跡となり、
私達の心から忘れ去られようとした。
再びその存在を知り、
そこに息づくエピソードを紐解く。
それは、私達のルーツを知ることになる。

龍王山城と十市氏

龍王山城は、奈良盆地の東にそびえる龍王山の高所（北城は五二二m、南城は五八五・九m）にありました。

規模は南北約一・二km、国中からの比高は約四八五mあり、比高では高取城を越える大和国随一の山城になります。

この山は柳本および、田（町）の龍王社（雨乞の神）が祀られていることから名付けられたといわれます。祀る溜井があったことから、水には恵まれていたそうです。

城主だった十市氏は、現在の橿原市十市に興った土豪で、全盛期の頃は大和国五大豪族の一人でした。十市遠忠の祖々父である十市遠清が応仁の乱の後、本市域に勢力を伸ばし、龍王山城の城主になりました。

のちに家督を受け継いだ遠忠は、天文九年（一五五九）筒井氏と和睦し、さらに勢力を拡大、興福寺から使が訪れる程に急成長しました。領地は、東山中から伊賀（三重県）との国境まで及び、要害の地、龍王山を本拠に十市、式上、山辺の三郡を治め、六万石余を領したと言われています。

遠忠は武人として優れているばかりでなく、和歌や連歌、書なども嗜み、文化人としても名を馳せていました。

その和歌に

えにしあれや
長岳寺の　法の水
むすぶ庵も
ほど近き身は

と、長岳寺の仏縁にも、結ばれていたことが察しられます。

遠忠の死後、嫡子の遠勝は、長年の同盟関係であった筒井氏の勢力下へ入り、秋山直国に攻められた後、十市城へ逃れます。

城は一時期、秋山氏が保有しますが松永久秀の手に渡り、甥である松永久通が城主になります。しかし、信貴山城の戦いで敗北し、久通は自害します。

無主となった龍王山城は、天正六年（一五七八）織田信長の山城破却令により、取り壊されました。

今に原型をよくとどめる土居（土塁）・堀割をはじめ石段や礎石と思われるものが残っており、往時の雄大な城廓を表わす資料としては「南北山城絵図」（天理市史の口絵に掲載）が三十五年前に発見されています。

城郭

この山城は北・南二つの峰に別れており、互いに呼応しあって一つの城を形づくり、〝別城一郭の構え〟と称され、越後（新潟）上杉氏の春日山城、安芸（広島）毛利氏の郡山城に比べても引けをとらないともいわれています。

平成九年（一九九七）に南城跡の本丸から平場までの発掘調査が行われたところ、尾根を造成して階段状に作られており、西斜面は急な崖面で、敵の侵入を防御するのにふさわしい地形になっていることが判明しました。

立地条件から、北城は本丸で、南城は詰め城になったのではないかと思われています。

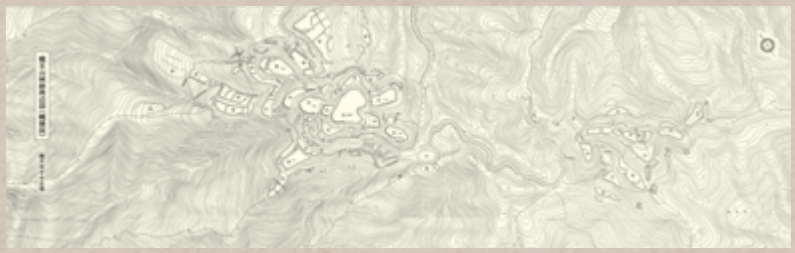
礎石建物や石組も見つかり、その附近から瓦が出土したことから、建物は瓦葺で外観は蔵のように堅牢な建物。内部は大広間があっただけで、ここでは日常的な生活は無かったのではないかと推定されています。

出土した瓦には、三角形の刻印があり、東大寺の土塀に塗り込められた瓦と酷似しているため、東大寺大仏殿の戦いで炎上した際、瓦を城郭瓦に転用したのではないかと推測されています。

その時の状況を考慮すると、松永久秀が創建した建物である可能性が高いとされています。

他にも、人工的に自然石を立てた簡素な石組みの庭園があります。山城では初めての庭園検出例であるとも言われており、枯山水風の庭園遺構があったことが、史跡を通して見ることができます。

城の特徴



●龍王山城縄張り図

北城、南城共に戦国期末期改修が確認されていますが、比較的北城の方が新しいとされています。縄張りは、戦国初期に見られる通常の形態となっていますが、南城では通常より技巧を凝らした縄張りになっています。

●建物の礎石列

平場は約500㎡の造成地です。この両側は急崖面がせまっており、平場の北半分を占めて礎石が整然と並んで検出されました。建物の規模は南北13m、東西幅は7mあります。

中央正面の2石は玄関の軒に当たり、南側は広場的な空間になっています。

●南城主郭から見た奈良盆地

大和三山をはじめ、金剛山・葛城山・二上山、その麓の奈良盆地を展望することができます。

城と市内観光

天理市では、昭和六十二年（一九八七）、崇神・景行天皇陵付近の古墳群と室町時代の龍王山城、さらに近代技術を結集した天理ダムなど、古代、中世、現代の構築物を結んだ市内観光ルートをつくりました。

以来、天理の〝歴史と健康の道〟と名付け、一九八九年には宝くじ協会からの助成で、山頂付近に〝桜の苗木〟千本が植樹されたほか、このルートを確保する林道整備も進められています。

龍王山へのハイキングコースは、長岳寺ルート（健脚コース）を含め、三ルートあり、行楽シーズンにはピッタリのコースになっています。運動がてらに、歩いてみてはいかがでしょうか。

アクセス　電車でのアクセス／JR万葉まほろば線柳本駅から徒歩
車でのアクセス／名阪国道天理東IC→県道51号線→国道25号線→県道247号線（道標有り）
※駐車場あり

命が吹き込まれる

森があり

平成24年の干支の辰や奈良の鹿を描いた赤膚焼茶碗

Imajin21

今人
創造

悠久の歴史の流れ、古の都は
今も、その面影を色濃く残す
いくつものドラマがあり
新たな時代が生まれた
そこから先人の英知を知り
人を見つめ直す
そして「今」を創造す

KYODO SEIHAN PRINTING
KSP

樹が育ち

そして紙ができ

ミックス
責任ある木質資源を使用した紙
FSC
www.fsc.org
FSC™ C007718

本誌は、「FSCミックス認証紙」を使用しています。

PRINTED WITH SOY INK™